

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

共立女子大学・共立女子短期大学
2024 年度入試 2 月 4 日

国 語

注意事項

1. この問題冊子は 13 ページあります。

大問	科目	ページ	選択方法	
一	現代文	1～4	必答問題	
二	現代文	5～9	選択問題	選択問題は出願時に登録した問題、いずれか1問を選択し、解答しなさい。
三	古文	10～13	選択問題	

2. 万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
3. 解答用紙は記述式解答用紙とマークシート解答用紙があります。問題文の指示に従って解答すること。
4. 解答用紙には座席番号・氏名を必ず記入すること。
5. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 選択問題は出願時に登録した問題を解答すること。登録以外の問題を解答した場合は無効となります。
7. マークシート解答用紙の記入に当たっては、HB の鉛筆またはマークシートペンを使用すること。(シャープペンシルは不可)
8. マークシート解答用紙に記載の「記入上の注意」をよく読んでから解答すること。
9. マークシート解答用紙の解答欄については、例えば、

10

と表示のある問に対して㉔と解答する場合は、次の(例)のように、10 の解答欄の㉔にマークしなさい。

(例)

解 答 欄	
10	㉔(イ)●(エ)㉔(カ)

10. 試験終了後、試験問題は持ち帰ること。

国語

大問	科目	選択方法	
一	現代文	必答問題	
二	現代文	選択問題	選択問題は出願時に登録した問題、いずれか1問を選択し、解答しなさい。
三	古文	選択問題	

(必答問題)

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(解答番号は

1) 13)

注

ミヒヤエル・エンデの『モモ』は、ある年齢以上の人ならば大概は読んだことのある児童文学のケツサク⁽¹⁾です。モモは、大都會のはずれの古代の円形劇場の廢墟⁽²⁾に住む小さな女の子で、彼女はカメとともに時間泥棒たちから盗まれた時間を取り返します。

「灰色の男たち」として描かれる時間泥棒たちは、いうまでもなく現代資本主義のメタファーです。彼らは、「時間節約をしてこそ未来がある！」と街の人々に囁きかけ、それと「A」するかのよう⁽³⁾にラジオやテレビ、新聞は、「時間のかからない新しい文明のリキ」⁽²⁾がいかに役に立つかを強調し、生活の効率化こそが「人間が将来『ほんとうの生活』ができるようになるための時間のゆとりを生んでくれる」と約束しました。知らず知らずのうちに、人々は自分の時間を明け渡してしまふ、つまり、より効率的で便利な日常に身を置くようになるのですが、そうするとますます忙しくなり、彼らの「一日一日は、はじめはそれとわからないほど、けれどしだいにはつきりと、みじかくなって」⁽³⁾いったのです。

モモは、そうした「灰色の男たち」の合理性がまるで「B」しない他者でした。ですからモモと時間泥棒たちとのぎりぎりのトウソウとして描かれるこの物語が、現代資本主義に対する時間論的批判であることは広く知られています。

しかし、ここで改めてこの作品に注目したいのは、この物語が、近代を超える時間論であると同時に都市論でもあるからです。物語は、時間論的と同時に、空間論的にも「C」しています。モモが住みついた円形劇場は古代都市の痕跡です。円形劇場が栄えていた時代から長い時間が流れ、かつての「大都市はほろび、寺院やキユウテン⁽⁴⁾はくずれおちました。風と雨、寒気と熱気に、石はけずられ穴があいて、大劇場も廢墟と化しました」。しかし、それでも今日、現代都市の「新しいビルディングのあいだのそこここに、むかしの建物の円柱や、門や、壁の一部がのこっています」⁽²⁾。そして、モモがその忘れられた古代都市の痕跡に住みついたのは、決して偶然ではありません。

現代都市の開発の波はこの廢墟の円形劇場の近くにまで迫ってきます。モモの親友の一人は「道路掃除夫のベッポ」でしたが、彼は昔の市の外壁あたりを掃除していた時、その外壁にはめ込まれた他の石とは違う色のいくつかの石を見つけ、そのような

石のはめ込みをしたのは「昔の自分たち」だと言いました。都市の風景を「D」すると、「その底のほうに、ほかの時代がしずんでいる、ずっと底のほうに」と彼はモモに語りかけています。

その一方で、モモは男たちの追跡を逃れ、カメに導かれるままにこの都市の迷路のような路地を抜け、荒廃し老朽化した地区を通ります。そこでモモが見たのは、「黒いまっ四角の石の台の上に、ものすごく大きな白い卵」を置いた記念碑であり、道沿いの家は、人間が「住むためのものではなくて、なにかべつの、よくわからないふしぎな目的のためにつくられている」ようでした。その先には、時間の流れが「E」してしまふ「さかさま小路」があり、この小路を後ろ向きに進むと古代ギリシャの時間神、クロノスのような老人の住む「どこにもない家」にたどり着きます。老人が人間に時間を手渡す存在であることはすぐに明らかですが、謎解きの会話の後、モモは老人に「あなたは死なの？」と尋ねます。

エンデがここで描いた「さかさま小路」や「どこにもない家」は、実はどの都市にも存在する場所だと私は思います。それは、墓地③です。「ふしぎな目的のためにつくられている」とモモが思いながら通り過ぎたのは、墓地に林立する墓のイメージに近く、エンデは、生きられる時間が「F」される源となる場所として廃墟と墓地を、逆に生きられる時間が失われていく場所としてせわしなく活動が繰り広げられるオフィス街を捉えています。廃墟に住むモモが時間泥棒から人間の時間を取り返せたのは、彼女だけが遠くの過去からの声、死者たちの記憶の声と自分の心のなかの声を響き合わせることができたからです。

私は、このようなモモを私たちの街歩きのもう一人の隠れたズイハン者④にしたいと思います。モモと一緒に歩くには、「さかさま小路」に向かう地区で「オソイホド ハイイ」、つまりゆっくり歩けば歩くほど前に進むことができた彼女の経験を踏まえなければなりません。街を速く移動しすぎることは、街を見失うことです。

（吉見俊哉『東京裏返し 社会学的街歩きガイド』による）

注 ミヒヤエル・エンデ——二十世紀のドイツの児童文学作家。『モモ』はその代表作で、日本語訳は一九七六年に刊行された。問題文中の「内は、『モモ』本文からの引用部分である。

問一 波線部①～⑤のカタカナ部分を、適切な漢字に改めなさい。解答は記述式解答用紙に記入すること。

問二 空欄〔A〕～〔F〕に入る語を、それぞれ次の①～⑥から選んで、記号をマークしなさい。解答番号はA 1、

B 2、C 3、D 4、E 5、F 6。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ① 相対 | ① 凝視 | ② 呼応 | ③ 創造 |
| ④ 展開 | ④ 発見 | ⑤ 反転 | ⑥ 抹消 |
| | | ⑦ 通用 | ⑧ 停滞 |

問三 傍線部①の理由としてもつとも適切なものを、次の①～⑥から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 7。

- ① ゆとりを無駄な時間として排除する考え方に支配されるから。
- ② 時間節約をしたぶん、余暇に多くの時間を費やしてしまうから。
- ③ 便利になることで節約できた時間を上手に使いこなせないから。
- ④ 何事も機械任せで、自分自身で時間を管理できなくなるから。

問四 傍線部②の理由としてもつとも適切なものを、次の①～⑥から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 8。

- ① モモは現代資本主義の崩壊を予見する存在だから。
- ② モモは古代ギリシアの遺産を継承する存在だから。
- ③ モモは現代資本主義の論理から外れる存在だから。
- ④ モモは過去の時間を自由自在に操れる存在だから。

問五 傍線部③はどのような場所を表すか。その説明としてもっとも適切なものを、次の㉗～㉙から選んで、記号をマークなさい。解答番号は 。

- ㉗ すでに失われてしまった場所
㉘ 時間節約とは無縁な場所
㉙ まだ誰にも知られていない場所
㉚ 空想的な時間が流れる場所

問六 次のⅠ～Ⅳに関して、問題文の内容と一致している場合は㉗、一致していない場合は㉘を、それぞれマークなさい。解答番号はⅠ 、Ⅱ 、Ⅲ 、Ⅳ 。

- Ⅰ 現代資本主義にとって異質なものは、社会の発展進化に伴い消滅していく。
Ⅱ 現代資本主義は、便利さを追求するあまり、かえって不便なものになっている。
Ⅲ 都市空間に息づく過去の痕跡の中に、都市生活を進化させるヒントが隠されている。
Ⅳ 都市空間の中には複数の時間が流れていることに気づくことが重要である。

問七 傍線部④は具体的にどういうことを指しているか。「効率化」「生きられる時間」「遠い過去」という三つの表現を必ずそのままの形で用いて、四十字以上五十字以内で説明しなさい(三つの表現を用いる順番は問わない。句読点や記号も字数に含まむ)。解答は記述式解答用紙に記入すること。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題) 二

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

(解答番号は

14

31)

私は、京都や奈良の寺院へ行って、昔風の、うすぐらい、そうしてしかも掃除の行き届いた厠^{注1}へ案内されることに、つくづく日本建築の有り難みを感じる。茶の間もいいにはいいけれども、日本の厠は実に「A」が安まるように出来ている。それらは必ず母屋^{注2}から離れて、青葉の匂いや苔^{こけ}の匂い^ののして来るような植え込みの陰に設けてあり、廊下を伝わって行くのであるが、そのうすぐらい光線の中にうづくまって、ほんのり明るい障子の反射を受けながら瞑想^{めい}に耽^{ふけ}り、または窓外の庭のけしきを眺める気持ちは、何ともいえない。漱石先生は毎朝便通に行かれることを一つの楽^aしみに数えられ、それはむしろ生理的快感であるといわれたそうだが、その快感を味わう上にも、閑寂な壁と、清楚^そな木目に囲まれて、眼^めに青空や青葉の色を見ることの出来る日本の厠ほど、へ「i」はあるまい。そうしてそれには、繰り返しているが、ある程度の薄暗さと、徹底的に清潔であることと、蚊の呻^{うな}りさえ耳につくような静かさとが、必須の「B」なのである。私^①はそういう厠にあつて、しとしと降る雨の音を聴くのを好む。ことに関東の厠には、床に細長い掃き出し窓がついているので、軒端や木の葉からしたたり落ちる点滴が、石灯籠の根を洗い飛び石の苔を湿^{うる}おしつつ土に沁^しみ入るしめやかな音を、ひとしお身に近く聴くことが出来る。まことに厠は虫の音によく、鳥の声によく、月夜にもまたふさわしく、「C」おりおりの物のあわれを味わうのに最も適した場所であつて、恐らく古^②来の俳人はここから無数の題材を得ているであろう。されば日本の建築の中で、一番「D」に出来ているのは厠であるともいえない。総て^{すべ}のものを詩化してしまう我らの祖先は、住宅中でどこよりも不潔であるべき場所を、かえつて、雅致^{がち}のある場所に変え、花鳥風月と結び付けて、なつかしい連想の中へ包むようにした。これを西洋人が頭から「E」扱いにし、公衆の前で口することをさえ忌むものに比べれば、我^はらの方が遙^{はる}かに賢明^{けいめい}であり、真に風雅の骨髓を得ている。強いて欠点をいうならば、母屋から離れているために、夜中に通うには便利が悪く、冬^bはことに風邪を引く憂いがあることだけれども、「風流は寒き

ものなり」という齋藤緑雨の言のごとく、^{注3} ああいう場所は外気と同じ冷たさの方が気持ちがいい。ホテルの西洋便所で、スチームの温気がして来るなどは、まことにイヤなものである。^(c) ところで、^{注4} 数寄屋普請を好む人は、誰もこういう日本流の厠を理想とするであろうが、寺院のように家の広い割に人数が^(d)少なく、しかも掃除の手が揃^{そろ}っているところはいいが、普通の住宅で、ああいう風に常に清潔を保つ^(e)ことは容易でない。取り分け床を板張りや畳にすると、礼儀作法をやかましくない、雑巾^{ぞうきん}がけを励行しても、つい汚れが目立つのである。で、これも結局はタイルを張り詰め、水洗式のタンクや便器を取り付けて、浄化装置にするのが、^(f)「F」的でもあれば、手数も省けるということになるが、その代わり「風雅」や「花鳥風月」とはへ ii へ。あそこがそんな風にぱつと明るくて、おまけに四方が真っ白な壁だらけでは、漱石先生のいわゆる生理的快感を、心ゆく限り^{きょう}享樂する気分になりにくい。

(谷崎潤一郎『陰翳礼讃』による)

注1 厠^{かわや}——便所のこと。

注2 母屋^{おもや}——敷地内にある中心的な建物のこと。

注3 齋藤緑雨^{さいとうりよくう}——明治時代の文学者。

注4 数寄屋普請^{すきやぶしん}——数寄屋造りに同じ。茶室建築を取り入れた日本家屋のこと。

問一 空欄〔 A 〕〔 F 〕に入る語を、それぞれ次の①～⑤から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は A 14、

B 15、C 16、D 17、E 18、F 19。

- | | | | |
|---|------|------|------|
| A | ① 身体 | ① 精神 | ⑤ 空間 |
| B | ① 条件 | ① 用件 | ⑤ 状況 |
| C | ① 四季 | ① 始終 | ⑤ 昼夜 |
| D | ① 質素 | ① 風流 | ⑤ 優美 |
| E | ① 付録 | ① 余剰 | ⑤ 不浄 |
| F | ① 健康 | ① 衛生 | ⑤ 生理 |

問二 空欄〔 i 〕〔 ii 〕に入るもつとも適切な表現を、それぞれ次の①～⑤から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は i 20、ii 21。

i ① 格好な場所

① 不釣り合いな場所

⑤ 好対照な場所

② すぐわない場所

ii ① 無縁なものではなくなる

① 似て非なるものとなる

⑤ 全く縁が切れてしまう

② しばらく距離ができる

問三 傍線部①の理由としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 22。

- ア 日本の厠は、壁や窓を通じて雨の音を聴けるように設計してあるから。
- イ 日本の厠は、もともと川の水によって清潔さを保つものであったから。
- ウ 恩師である漱石の境地に近づくことができると考えているから。
- エ 厠でひとり落ち着くことができる時間を好ましく思っているから。

問四 傍線部②の理由としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 23。

- ア 俳人は、厠においても陰影の微妙な変化を容易に感じ取れるから。
- イ 俳人は、日常生活における小さな変化を敏感に感じ取れるから。
- ウ 厠は、季節の変化を身近に感じ取れる場所だから。
- エ 厠は、屋内における温度の変化を即座に感じ取れる場所だから。

問五 傍線部(a)～(f)の語の品詞名を、それぞれ次のア～クから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は(a) 24、

- (b) 25、(c) 26、(d) 27、(e) 28、(f) 29。
- ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞
- オ 副詞 カ 連体詞 キ 感動詞 ク 接続詞

問六 『陰翳礼讃』を書いた谷崎潤一郎による著名な作品を、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

30。

- ア 『五重塔』 イ 『細雪』 ウ 『暗夜行路』 エ 『天守物語』

問七 この問題文の趣旨としてもっとも適切なものを、次の㉗～㉟から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

31

。

- ㉗ 文化的な特徴を追求した日本のトイレの普遍性。
- ㉘ 日本に入ってきた西洋式水洗トイレの先進性。
- ㉙ 逆説的に、日本のトイレの狭さと明るさが生む利便性。
- ㉚ 日本のトイレが持つ清潔さ、薄暗さ、静かさの重要性。
- ㉛ 日本のトイレが構造的に有している合理性。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題) 三 次の文章は、「発心集」という仏教説話集の第七一話の一節である。よく読んで、後の問に答えなさい。(解答

番号は 14) 32)

中ごろ、宝日といふ聖^(a)ありけり。「何ごとを 勤むる」と、人間ひ(あ)ば、「三時の行ひつかうまつる」と言ふ。重ねて、「いづれの行法ぞ」と問ふに、答へて言ふやう、

「暁には、

I 明けぬなり賀茂の河原に千鳥鳴く今日も空しく暮れんとすらん

日中には、

II 今日も又午^{うま}の貝 吹きにけれ末^(b)の歩み近づきぬらん

暮には、

III 山里の夕暮の鐘の声ごとに「A」も暮れぬと聞く 悲しき

この三首の歌を、おのおの時をたがへず詠じて、日々に過ぎ行くことを観じ侍るなり」とぞ言ひける。

いと珍しき行なれど、人の心の進む方さままなれば、勤めも又「B」ならず。

潤子の曇融^{どんゆう}聖は橋をわたして、浄土の業^{ごう}とし、蒲州の明康法師は船に棹^{さか}さして、「C」を遂げたり。^①いはんや、和歌はよくことわりを極むる道なれば、これに寄せて心を澄まし、世の常無きを観ぜんわざども、^②便りありぬべし。

かの恵心^{注1}の僧都は、「和歌は綺語^{注2}の謬^{あやま}り」とて、よみ給はざりけるを、朝ぼらけにはるばると湖をながめ給ひける時、霞み渡れる波の上に船の通ひけるを見て、「何に譬^{たと}えん朝ぼらけ」といふ歌を思ひ出して、折節心に染み、ものあはれに覺されけるより、「聖教と和歌と 、はやく一つなりけり」とて、その後なむ、さるべき折々、必ず詠じ給ひ(い)。

注1 恵^{えしん}心の僧都——平安中期の天台宗の高僧。

注2 綺語^{きご}——真実を離れ、巧みに飾り立てた言葉。

問一 傍線部(a)と(b)の漢字の読みを、それぞれ次の㉑～㉕から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は(a) 14、(b)

15。

- (a) ㉑ みこと ㉒ ほとけ ㉓ ひじり
(b) ㉔ ひつじ ㉕ さる ㉖ とり

問二 「A」～「C」に入るもっとも適切な語を、それぞれ次の㉑～㉕から選んで、記号をマークしなさい。解答番号はA

16、B 17、C 18。

- ㉑ 往生 ㉒ 今日 ㉓ 一筋

問三 i、ivに入る係助詞としてもっとも適切な語を、それぞれ次の中の㉑～㉕から選んで、記号をマークし

なさい。解答番号は i 19、ii 20、iii 21、iv 22。

- ㉑ ぞ ㉒ は ㉓ か ㉔ こそ ㉕ も

問四 (あ)と(い)には助動詞「けり」が入るが、その活用形として適切なものを、それぞれ次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は(あ) 23、(い) 24。

- ア けら イ けり ウ ける エ けれ

問五 波線部①～③の解釈としてもっとも適切なものを、それぞれ次のア～ウから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

① 25、② 26、③ 27。

- ① ア つまり イ まして ウ しかし
② ア 道理 イ 脱俗 ウ 人心
③ ア 連絡 イ 機会 ウ 手段

問六 I～IIIの和歌の句切れとして適切なものを、それぞれ次のア～オから選んで、記号をマークしなさい。解答番号はI

28、II 29、III 30。

- ア 初句切れ イ 初句切れと三句切れ ウ 三句切れ エ 四句切れ オ 句切れなし

問七 二重傍線部Ⅳは万葉集に載る、沙弥満誓しゃみまんせいという僧の歌(卷三の三五一番)の上句(世の中を何にたとへむ朝開き)をふまえたものであり、その下句には、諸行無常の様子がたとえられている。そのたとえの表現としてもっとも適切と思われるものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 31。

- ア 漕ぎ去いにし船の跡なきごとし
- イ 漕ぎ出す船いの数あるごとし
- ウ 漕ぎ行く船の霞むがごとし
- エ 漕ぎ入る船をながむるごとし

問八 問題文を含む「発心集」の編者は「方丈記」の作者でもある。その人物を、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。

解答番号は 32。

- ア 西行
- イ 蓮如
- ウ 長明
- エ 兼好